

特集

さよなら

デュプロ会長

デュプロ会長の送別パーティ行われる

AIU社長に着任のため7月11日に離日されたデュプロ会長を送る会が各所で開催されました。6月7日にはICP主催のパーティがAIUビル敷地内のガーデンで開催されました。パーティには新入社員から役員まで多くの人々が出席し、ご夫妻の人柄を思わせる和やかな雰囲気の中で、おそくまで名残を惜しんでいました。6月18日には、フェアウェルパーティがパレスホテルで開催されました。得平社長がデュプロ会長



6月7日ICP Farewell Partyにて

得平社長のあいさつ

皆さん、このたびはデュプロ会長およびナンシー夫人にしばしのお別れをしながらはなりません。ご一家は7月11日にニューヨークへ向かうことになっていきます。しかし今後も日本をしばしば訪れることになるでしょう。

ブライアンは皆さんもご承知のとおり、AIUの社長としてニューヨークに戻ります。彼の今度のポストは極東地域だけではなく、ヨーロッパ、南アメリカから遠くアフリカまでをカバーする重責であります。私は彼がその責務を全うし、大きな功績を挙げることを確信します。

皆さんもよくご存じのようにブライアンはAIUの組織全体でも最高の経営陣の一人です。有能であり、明晰でかつ何事にも積極的な人です。また、彼の人柄は人々の尊敬と信頼を集めています。

こういった人柄と能力によって彼は日本で多くの友人を作りました。幸いにも彼と一緒に働く機会を得ることができた人たちは、彼に絶大な信頼を寄せ、尊敬して仕事をしていました。我々は彼が示してくれたリーダーシップに深く感謝します。

ブライアンが日本を去ってしまふのはとても寂しいことです。しかし

かし、幸いなことに今度はニューヨークにいて我々と一緒に仕事をすることになっていきます。我々は彼のことをよく知っていますし、彼もAIUの日本のオペレーションをよく理解しています。彼は今後も我々のよき理解者であり、相談相手でいてくれることと思います。

ブライアン、ナンシーにもう一度感謝の気持ちを伝え、今後のご幸福をお祈りしてご挨拶いたします。



デュプロ会長のあいさつ

こういう席で皆さんに挨拶するのはとても辛く、また難しいことです。私は日本に約2年間滞在しましたが、これはとても短い期間でした。もつと長くいられると思っていましたので、もうお別れを言わなくてはならないことをとても寂しく思います。

私は日本のAIUで働く皆さんのことを誇りに思います。素晴らしい性格と献身的な努力は世界中のAIUの中でも最高のものだと思確信しています。近く着任されるフリーマン会長とグリーンバーク

しています。本日は大変ありがとうございました。

フリーマン会長のあいさつ



私は1990年11月に本紙に寄稿した際に、日本のAIUの前途は以前にも増して、ますます明るいものになるだろうと述べました。その時は、まさか私が再び日本に来て、皆さんと一緒に日本のAIUの将来を分かちあおうとは夢にも思っていませんでした。

私は再び日本で仕事ができるようになったことを嬉しく思います。今回は、最初の滞在ほど長くはないと思いますが、皆さんと一緒に多くのことを達成できると期待しています。

今こそ若い人たちが進んでAIUの中で重要な役割を果たすべきであり、また我々年配の者もみな、有能な若い人達をますます責任ある地位につけるべきなのです。そうすることは我々にとつてエキサイティングなことなの

ご承知の通り変革の風が偉大な皆さんの国にも吹き始めました。昔のやり方は通用しなくなるでしょう。変革は一時に急激に行なわれてはいきませんが、確実に進行していきます。

日本の経済人や学者、さらに政府の高官も、金融業界の規制緩和について話し合っています。すでにこれらの人々は、生命保険会社と損害保険会社の相互参入が除々に認められるべきだと考えていますし、現在の厳しい利率制度からの移行、契約募集方法の改革についても話し合っています。おそらく日本でもプロカーに活躍の場が与えられることになるでしょう。

また新年のメッセージで述べましたように、AIUは日本にあるどの保険会社より、この変革に有利な立場にあり、さらに、これらの変革の中でAIUが指導力を発揮できるものがあると思います。A

IGは強力な生命保険会社、強力な損害保険会社、強力な投資グループを傘下に持っています。またアメリカン・ホームやJIIのようなグループ会社も着実な伸びを示しています。したがって当社は己れの欲するままに、ほとんどあらゆる方向に進むことができます。これからの機会が皆さんを待っています。私はAIUの日本における機構を全社的に強化し、効率化し、日本国民のニーズにさらによく応えていくために、皆さんの意見、考え方を広く問い、ともに実行していきたいと思っています。

A Message to AIG Family in Japan
July 1991
by
Houghton Freeman
Chief Executive Officer
AIG companies in Japan, Korea and China

When I wrote a message to this magazine in November of 1990, I stated that I thought the prospects of the future for AIG in Japan were brighter than its past, did I dream I would be back here in this country to share that future with you. I am, of course, delighted to be here, though I will not stay for as long as I did on my first tour. I hope that to accomplish many things together.

As you start playing a more important role in the conduct of AIG in Japan and I will be excited for all of us old-timers to start pushing some of these areas of increasing responsibility. As you all know, the change have begun to slow across this great country of yours and a lot of ways of doing things will be changing, not all at once, not rapidly, but surely in its way.

As your economists, your scholars, and even your governmental authorities are talking about deregulation of the financial sector. Already they are thinking about life and non-life should gradually be allowed to work in each other's territories. Already they are talking about moving from the strict tariff which presently exists, a strong non-life company and a strong American company and to perhaps allow brokers to have a place in Japan.

Again, as I said in my New Year's message to you, I think that AIG more than any other insurance organization in Japan is in a better position, not only to respond to these changes but to initiate and take the lead in bringing some of them about. With a strong life company, a strong non-life company and a strong American group and with our steady growth in subsidiary organizations such as American Home and Japan International we have the ability to move in most any direction we wish.

There is a lot to be done. There are many opportunities for all of you in the weeks and months to come and I will look forward to working with you and sharing with you your ideas and beliefs as to how we can make this overall organization in Japan stronger and more efficient and more responsive to the needs of the Japanese people.

Very truly yours,
Houghton Freeman



デュプロ会長ご夫妻

副会長に対しても私に対して下さったのと同様の協力をお願い致します。日本においてAIUは45年間にわたる素晴らしい伝統を築いてきました。先日ある人が「AIUでの1年は他で過ごす10年に匹敵する」と言っていました。我々が働くこの組織はまさに世界のチャンピオンチームであり、だからこそ個々の社員に対する要求も高水準なのです。このような一見厳しい環境こそが我々を育ててくれるのです。

皆さんの今後のご活躍をお祈り